

諏訪小だより

令和5年 9月29日
10月号
多摩市立諏訪小学校
校長 齋藤 幸之介

「一隅を照らす」姿を見いだすー通知表を通してー

9月の最終週に入って気温も下がり、「秋らしくなった」と思ったのもつかの間、気温が再度30℃以上に逆戻りする、との予報が出ています。暑さの厳しい日々がもう少し続くようです。

9月中旬より学級閉鎖、学年閉鎖、そして学校閉鎖を行わねばならず、皆様には御迷惑をおかけしました。おかげさまで欠席者数はぐっと減り、平常の教育活動を行うに至っています。御協力を頂戴し、ありがとうございます。

さて、本日をもちまして、前期を終了いたします。ここに至るまで、皆様には多大なる御理解と御協力を賜りましたことに、深く感謝を申し上げます。

区切りとして、私共は子供たち一人一人に通知表を渡しました。

一隅を照らす

私事で恐縮です。

かつて担任を務めていた際、私は学級通信を発行していました。日々の出来事を、子供たちの活動を中心に据えながら保護者の皆さんに伝えました。夏休みに入る段階で通信は数十枚になりました。

私は当初この通信にタイトルを付けませんでした。「誰かに付けてほしい」と思っていました。

ある日一人の保護者が尋ねてくれ、紺色の色画用紙を差し出しました。画用紙の中身は丁寧に束ねた学級通信でした。「ここに先生の名前を書いてほしい」、私は快くお受けしました。そこには「一隅を照らす」とありました。私は夏休み明けからこれをタイトルとした学級通信を発行し続けました。

口幅ったくなりますが、これは天台宗開祖の最澄の言葉です。「一隅を照らすことが国の宝」、つまり「一人一人が立場や場所で最善を尽くすことで、誰もが幸せに過ごせる世の中にしたい」という教えです。なかなか見付けられないけれど、子供たち一人一人が日々の学校生活の中で様々な活躍をしており、このことがその時々はもちろんのこと、将来にも生きる、とその保護者は考えていたのでしょうか。

子供たちの姿を評価し、伝える

子供たちは、日々の教育活動の中で様々な成果を上げています。これらを積み上げながらいずれは他者そして社会につながっていきます。私共は、このような子供たちの姿、換言すれば「よさ」を見だし、保護者の皆様、御家族の方々にお伝えをしたく通知表を作成します。所見は、ともすると見過ごしてしまいそうな些細な姿を一人一人のよさとして捉え、皆様に伝わりやすいように具体的に書かれています。昨今では、結果だけでなく、学習のプロセスに見られる子供たち一人一人のよさを見付け、そして時にこれを認め、時にこれをさらに伸ばすために助言をしていく、という評価が重視されています。所見には、担任のこのような評価が込められています。つまるところ「一隅を照らす」子供たちの姿を「照らしてあきらかになったよさ」をお伝えするのが、教員の務めである、と確認することができます。保護者の皆様、御家族の方々には、御子様と共に通知表を基に前期を振り返っていただき、ぜひ認め、褒め、励ましていただければと思います。

教員の自己評価ー通知表のもう一つの役割

評価は、学校で言えば、教員が子供たちに行うものでもあります。同時に教員自身が振り返ることもあります。通知表の作成を通して前期の教育活動を振り返り、成果が上がった場合やその要因、また同時に成果が十分に見られなかった場合とその分析等を行っています。子供たち一人一人の変容を素直に喜びながら、さらなる高みを目指すべく新たな目標や具体的な方策を考えています。教員のこのような姿も「一隅を照らす」と言えましょうか。

来週から後期が始まります。皆様には改めて御理解と御協力を賜りたくお願いを申し上げます。

(参考)

「一隅を照らす精神、今こそ 伝兄弟誌最澄 1200 年大遠忌 天台宗・比叡山延暦寺」(2021年3月23日 朝日新聞デジタル)

「教育評価 重要用語 300 の基礎知識 (森敏昭・秋田喜代美編集 明治図書、2000年)」